

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1449 号	氏名	中家 真理
学位審査委員	主査 鳥羽 陽 副査 黒田 直敬 副査 岩田 修永		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、臨床診断に資するイメージングプローブが未開発である異常型プリオンタンパク質凝集体及びα-シヌクレイン凝集体を標的としたイメージングプローブを開発しようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 化合物の物理化学的なパラメーターを用いて算出される指標を用いて高い脳移行性と非特異的な脳内分子との結合の軽減を期待してプローブの母体化合物を設計、合成し、各種の <i>in vitro</i> 及び <i>in vivo</i> の手法を用いて候補化合物の有用性を解析したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、候補化合物のうちベンゾフラニルクロモン (BFC) 誘導体が異常型プリオンタンパク質凝集体への良好な結合性と脳内挙動を示し、α-シヌクレイン凝集体に対して良好な結合性を示した。以上の結果より、BFC 誘導体が脳内アミロイド凝集体を標的としたイメージングプローブとして機能し得ることを明らかにしたことから、今後の臨床診断に適用するための応用研究への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は脳内アミロイド凝集体を特異的に可視化できるイメージングプローブの開発に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（薬科学）の学位に値するものと判断した。</p>			